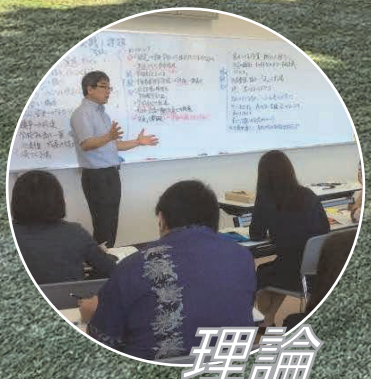
学びたいあなたが
そこにいる


理論

実践

議論

研究

2025 Graduate School Education, University of the Ryukyus Campus Guide

琉球大学教職大学院

高度な理論的基盤、理論と実践の往還
高度な専門性、実践的指導力の育成

【本専攻の目指す人材像】

◆現職院生：地域や学校において指導的・中核的な役割を果たすために必要な高度で優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダーとなる教員

◆学卒院生：実践的な指導力・展開力を備える新しい学校づくりの有力な担い手として自ら積極的に取り組み、将来的にリーダーの役割を果たすことができる新人教員

【3つの特色】

1．20名の定員に対し、17名の専任教員等による指導体制
2．恵まれた環境と優遇措置
3．特別支援学校での実習、専修免許取得

琉球大学教職大学院では、高度な実践力の育成と個々の研究課題を解決するため、講義や実習等カリキュラムの充実をはじめ、広々とした院生室、ほっとできる談話コーナーなど恵まれた学びの環境を用意しました。

さらに、次のような優遇措置も準備されています。

- 現職院生は授業料を一部免除。また、沖縄県の公立学校に勤務する中堅教諭等資質向上研修該当者（幼稚園を除く）の場合、大幅に研修が免除。
- 現職院生以外の場合でも、教員採用試験に合格し、かつ正規常勤採用されることが確定した者は最終年度の授業料を全額免除。
- 本専攻に進学予定段階または在学中に、沖縄県教員採用試験に合格した場合は、名簿登載期間の延長あり。
- 沖縄本島以外から入学する沖縄県の教職員の場合、特例措置等あり。

このような恵まれた環境の中で、学習指導、生徒指導、組織運営という沖縄県の教育課題に関わる各場面において、合理的かつ反省的に考え、問題解決ができる人材を育成します。

琉球大学の教職大学院の正式名称は、「琉球大学大学院教育学研究科専門職学位課程高度教職実践専攻」です。この名の通り、ここは、学校をとりまく諸問題を解決し解決の糸口を探り、学んだことを実践力として還元する場。そして「子どもたちや、これからの社会に必要なことは何か」を考え実践し、また振り返り、理論と実践を往還しながら融合させることを志向した豊かで深い「学びの場」です。さあ、あなたも、琉球大学教職大学院へ学びに来ませんか。

◆教育の理論を学び深める

現場で積み重ねてきた実践を整理する機会、それが大学院です。沖縄県の課題や特徴がそれぞれの講義に取り入れられ深いことを面白く難しいことをわかりやすく学ぶことができます。

◆生活指導に強くなる

沖縄県の課題といえば貧困問題です。学力を高めたい。けれど子どもたちの抱える課題は多く、悩んでいるのではないでしょうか。そこで、子どもの見方や家庭への支援を問い直し理論と実践を学びましょう。

◆充実した実習や指導体制

ひとりの大学院生に複数の大学教員が付き指導する恵まれた体制です。全員に特別支援学校での実習を実施。さまざまな校種を体験し教育的視野を広げ、あなたや沖縄県の教育により貢献できる体制づくりを行っています。

◆恵まれたインセンティブ

授業料の優遇措置や沖縄県の幼稚園を除く公立学校に勤務する中堅教諭等資質向上研修該当者への優遇措置。大学を卒業し入学した院生が沖縄県の採用試験に合格すると名簿登載期間が延長され、2年目の学費を免除します。

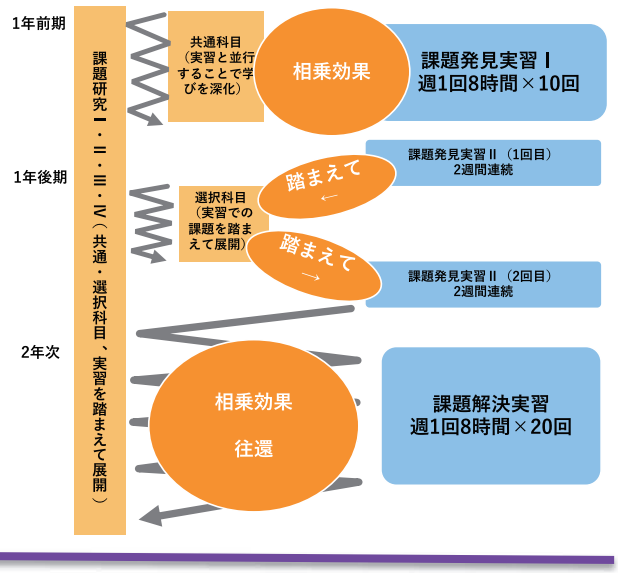
教育課程の編成と実践：課程の編成って地図の作成に似ています。地図を持って歩くのは子どもたちです。いつかは自分自身の地図を作ってほしい。

教授学習の課題と実践：講義で『学習支援のツボ』というステキな本に出合いました。支援のあり方について考えを深めることができます。

学校不適応への実践と課題：学校では、発達障がいの子や暴れる子を、どう理解し接したらよいのか悩んでいましたが、ヒントがつかめました。

支援学校の実習：百聞は一見に如かず、百見は一考に如かず、百考は一行に如かず、教育の原点を特別支援学校での実習で発見しました！

授業科目間の関係図



【研究テーマの例】

小学校	支援の必要な児童への交流学級での居場所づくり ―インクルーシブ教育を目指すアセスメントを通して―
小学校	協働して問題解決し音楽表現の価値を見出す児童の育成―ICTを活用した音楽づくりの実践を通して―
中学校	自律的学習につなげる英語科単元計画・授業デザイン―学びを委ねる授業デザインへの改善を通して―
中学校	生徒の主体的な学びを支える教師の指導観の転換-中学校における総合的な学習の時間を核においた校内体制の構築-
高等学校	商業科目「総合実践」における多様な生徒が学びに向かう授業の実践研究
特別支援学校	特別支援教育における教科「国語」単元設定の原理に関する研究　―「ことばの学びづくりの羅針盤」試案の作成と検証を通して―
学部卒	小学校外国語科における音声と文字をつなぐ教材づくりと評価　-ICTを活用した教材づくりとARCSモデルによる評価を通して-

大学院での学びは？

◆ 大学院の主な授業科目の一覧です。前期はおもに必修科目、後期は選択科目を選び学びます。左は大学院生の授業感想です。

		科　　目
必修20単位（前期）		教育課程編成の課題と実践
		指導と評価の課題と実践
		教授・学習の課題と実践
		思考・判断・表現力育成の課題と実践
		生活指導・生徒指導の実践と課題
		学校不適応への実践と課題
		学級経営の実践と課題
		学校改革の実践と課題
		学校教育・教員のあり方の課題と実践
		沖縄の学校と社会
特支必修4単位		特別支援教育特論
		特別支援教育システム論
選択10単位（主に後期）	学習指導	授業分析・リフレクションの理論と実践
		アクティブ・ラーニングの課題と実践
		授業づくりの理論と実践
		学習指導のための教材・教具の開発と活用
		活用力としての教科外活動
		授業実践力向上の基礎（主として学卒院生）
		○○科教育の理論と実践の高度化Ⅰ
		○○科教育の理論と実践の高度化Ⅱ
		授業づくりと指導法の高度化
	生徒指導	積極的生活指導・生徒指導
		いじめ問題への対応と課題
		こども支援のための地域・保護者との協力関係づくり
		特別な支援を必要とするこどもの理解と実践
		新時代こども支援活動
	組織運営	地域と学校の在り方
		校内研究組織の実践と課題
		組織的意思決定マネジメント
		教師の成長とメンタリング
	学校経営	学校安全管理
		学校マネジメント
		学校と地域との連携の実践と課題
	特別支援教育	特別支援教育コーディネーター論
		特別支援教育の教育課程・授業特論演習
		特別支援教育・地域支援の理論と実践
		障害児理解と教育実践・発達臨床支援
		肢体不自由児の理解と支援
		病弱児の理解と支援の探究
		重複障害児の理解と支援
課題研究・実習	特支以外	課題研究Ⅰ～Ⅳ（２年間）
		課題発見実習（１年次）
		課題解決実習（２年次）
	特支	課題研究Ⅰ～Ⅳ（特別支援教育）（２年間）
		課題発見実習（特別支援教育）（１年次）
		課題解決実習（特別支援教育）（２年次）

実習校で授業

実習は 2 タイプあり、前期は校種を超えて経験を豊かにするため附属学校や特別支援学校に授業観察に行きます。後期はあなたの課題を明確にするために授業を実際に行います。

講義の様子 プレゼンやグループで話し合い

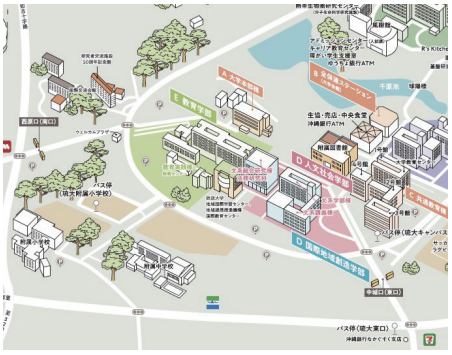
ゆっくり研究する

令和７年度・教職大学院時間割表

前期

授業時限	月	火	水	木	金
１時限 8:30~10:00		沖縄の学校と社会	教授・学習の課題と実践	学級経営の実践と課題	課題発見実習Ⅰ 課題発見実習ⅠA・ⅠB（特別支援教育） ※連携協力校等の都合により、金曜日以外に振替実施することがある（その場合には、金曜日に月~木曜日の授業を実施する）
２時限 10:20~11:50	学校教育・教員のあり方の課題と実践	特別支援教育特論	学校不適応への実践と課題	教育課程編成の課題と実践	
３時限 12:50~14:20	生活指導・生徒指導の実践と課題	課題研究Ⅰ 課題研究Ⅰ （特別支援教育）		学校改革の実践と課題	
４時限 14:40~16:10	指導と評価の課題と実践	課題研究Ⅲ 課題研究Ⅲ （特別支援教育）		思考・判断・表現力育成の課題と実践	
５時限 16:20~17:50					
実習 集中講義 等	２年次学卒院生対象選択科目：インターン実習・インターン実習（特別支援教育） 課題解決実習・課題解決実習（特別支援教育）／課題発見実習Ⅰ／課題発見実習ⅠA（特別支援教育）・ⅠB（特別支援教育）／集中講義：特別支援教育システム論				

教員一覧は
教職大学院 HP
でご覧ください。



お問い合わせ

琉球大学教育学部 学務係電話　098-895-8317

Mail：infopste@acs.u-ryukyu.ac.jp

琉球大学教職大学院

http://www1.edu.u-ryukyu.ac.jp/kyoshoku/